

Lektion 1

[動詞の現在人称変化と語順]

1 動詞の現在人称変化

1. 【補足】

- ich は英語の I とは違い、文頭以外では小文字で書き始めます。
- 3人称単数の代名詞の er 「彼」、es 「それ」、sie 「彼女」は、人間を指すだけでなく、er は男性名詞、es は中性名詞、sie は女性名詞を受ける代名詞として使われます。この意味で、er = 「彼」、sie = 「彼女」という日本語の訳語はあくまでも便宜上のものです。(名詞の性については第2課で勉強します。)

2. 親称2人称 du / ihr と敬称2人称 Sie

2人称には家族や親しい友人など気を遣わなくてよい相手に使う du (君) / ihr (君たち) と、一般的な間柄の相手に使う Sie (あなた, あなた方; 単複同形) があります。この Sie は3人称複数の sie (彼ら) と同じ変化をしますが、常に大文字で書き始めます。

この二つの2人称の使い分けは、必ずしも日本語の敬語の使用と同じには考えられません。たとえば、神様は自分にとって一番とっていいほど身近な存在なので、尊敬しようとも du で話しかけます。子どもや動物にも気を遣わないのでやはり du で話しかけます。

一般に、大人同士は Sie で呼び合う (これを siezen と言います) 関係から、ある時点で du で呼び合う (duzen) 関係になります。このとき、一般には、年齢や社会的地位が上だと見なされる方が、„Wollen wir uns duzen?“ 「私たちは du で呼び合いませんか？」や、„Darf ich Ihnen das Du anbieten?“ 「あなたに du で呼ぶことを提案してもいいですか？」などと持ちかけ、お互いが納得すれば du で呼び合う関係になります。なお、du で話すひとは Thomas などのファーストネーム (r Vorname) で、Sie で話す人には、男性の場合 Herr Schmidt, 女性の場合 Frau Schmidt のように、Herr または Frau + ファミリーネーム (r Familienname) で呼びます。

3. 少し注意のいる動詞の現在人称変化

<口調上の e の挿入>

語感が -t, -d で終わる動詞は、2人称単数・複数 (du/ihr) と3人称単数 (er/es/sie) が主語のとき、発音しやすくするために -e- を入れます。

arbeiten	「働く」 →	du arbeitest, er arbeitet, ihr arbeitet
finden	「見つける, ~と思う」→	du findest, er findet, ihr findet

Wo arbeitest du?

君はどこで働いているの？

Mari findet Lea nett.

マリはレアのことを親切だと思う。

語幹が、-ffn, -chn, -gn など「子音 + -n」の組み合わせで終わる動詞にも口調上の e が入ります。

öffnen	「開ける」 →	du öffnest, er öffnet
zeichnen	「描く」 →	du zeichnest, er zeichnet
regnen	「雨が降る」→	es regnet

Er öffnet das Fenster.彼は窓を開ける。
 Maria zeichnet gut. マリアは絵がうまい。
 Es regnet jetzt. 今、雨が降っている。

<語幹が -el で終わる動詞>

lächeln など語幹が -el で終わっている動詞は、1 人称単数において語幹末尾の e を省きます。

lächeln 「ほほえむ」 → ich lächle
 angeln 「つりをする」 → ich angle

【注】これはそのままだと、ich *lächele のように、-ele- というアクセントを持たない (=弱母音の) e が連続してしまうからです。ドイツ語では一般に弱母音の連続が避けられます。なお、理屈としてはどちらかの e を省けばいいのですから、ich lächel や ich angel という形でも良いわけで、実際、口語でこのような形が見られることもあります。しかし、正しいドイツ語とは見なされていません。

<語幹が [s], [ts] で終わる動詞>

語幹が [s] や [ts] で終わる動詞の 2 人称単数 (du) では、語尾 -st の -s が融合するので単に -t だけを付けます。その結果、これらの動詞では 2 人称単数と 3 人称単数は同じ形になります。

reisen 「旅行する」 → du reist, er reist
 heißen 「～という名である」 → du heißt, er heißt
 tanzen 「踊る」 → du tanzt, er tanzt

2 重要な疑問詞

重要な疑問詞には次のものがあります。

wann 「いつ」 wo 「どこで」 woher 「どこから」 wohin 「どこへ」
 wer 「誰が」 was 「何が・何を」 wie 「どのように」

Wann kommen Sie morgen? あなたは明日いつ来ますか?
 Wo wohnen Herr und Frau Schmidt? シュミット夫妻はどこに住んでいますか?
 Woher bekommst du so viel Geld? 君はどこからそんなにたくさんのお金をもらっているんだい?
 Wohin geht er jetzt? 彼は今どこに行くのですか?
 Wer wohnt hier? 誰がここに住んでいるのですか?
 Was machst du denn da? 君はいったいそこで何をしているんだい?
 Wie machst du das? 君はそれをどうやってするの?

③ sein と haben の用法

1. sein の用法

sein は英語の be 動詞に相当し、次の用法があります。

【主語と述語の同定 (A = B)】

Herr Schmidt ist Lehrer. シュミットさんは先生です。

Ich bin müde. 私は眠い (疲れている)。

ドイツ語では職業、身分、国籍を表す名詞には男性形と女性形があり、女性形は多くの場合、男性形に -in を付けてつくります。なかには、ウムラウトを伴うものがあります。

Lehrer 「(男性の) 先生」 — Lehrerin 「(女性の) 先生」

Arzt 「(男性の) 医者」 — Ärztin 「(女性の) 医者」

また、職業、身分、国籍を表す場合、名詞には (英語と異なり) 冠詞を付けません。

Ich bin Student. 私は学生です。 (英 I am a student.)

ただし、その人の身分よりも、性質の描写に力点が置かれると不定冠詞が付きます。

Sie ist eine gute Lehrerin. 彼女は良い先生です。

Er ist ein Schauspieler. 彼はまったく役者だよ (役者のような人だ)。

(Er ist Schauspieler. 彼は (職業として) 俳優です。)

【主語の存在】

Yui ist jetzt in Deutschland. ユイは今ドイツにいる。

2. haben の用法

haben は英語の have に相当し、所有関係を表しますが、日本語の「持つ」よりも多くの目的語を取ります。

Er hat viel Geld. 彼はお金をたくさん持っている。

Ich habe Hunger/Durst. 私はお腹が空いている / 喉が渇いている。

Sie hat blonde Haare. 彼女は金髪だ。

Ich habe eine Schwester. 私には姉 (妹) が一人いる。

4 不規則動詞の現在人称変化

動詞の中には主語が2人称単数 (du) と3人称単数のとき、語幹の母音に変化するものがあります。変化のタイプには、次のものがあります。

【a → ä タイプ】

schlafen 「眠る」				tragen 「運ぶ」			
ich	schlafe	wir	schlafen	ich	trage	wir	tragen
du	schläfst	ihr	schlaft	du	trägst	ihr	tragt
er	schläft	sie	schlafen	er	trägt	sie	tragen

Schläfst du immer gut?

君はいつもよく眠れますか？

Sie trägt eine Brille.

彼女はめがねをかけている。

このタイプに含まれる重要な動詞には更に次のものがあります。

fahren 「(乗り物で) 行く」, fallen 「落ちる」, fangen 「捕まえる」, schlagen 「打つ, なぐる」, wachsen 「育つ」, waschen 「洗う」

【e → i/ie タイプ】

• e (短母音) → i (短母音) になるもの

essen 「食べる」				helfen 「助ける」			
ich	esse	wir	essen	ich	helfe	wir	helfen
du	isst	ihr	esst	du	hilfst	ihr	helft
er	isst	sie	essen	er	hilft	sie	helfen

* essen の du と er は同じ形になります。

Isst du gern Pizza?

ピザを食べるのは好き？

Er hilft nie.

彼は決して助けない。

このタイプに含まれる重要な動詞には更に次のものがあります。

brechen 「折る, 壊す」, sterben 「死ぬ」, treffen 「会う」, vergessen 「忘れる」, werden 「～になる」, werfen 「投げる」

• e (長母音) → ie (長母音) になるもの

lesen 「読む」				sehen 「見る」			
ich	lese	wir	lesen	ich	sehe	wir	sehen
du	liest	ihr	lest	du	siehst	ihr	seht
er	liest	sie	lesen	er	sieht	sie	sehen

* lesen の du と er は同じ形になります。

Liest du gern?

君は読書をするのが好きですか？

Sie sieht das Fußballspiel.

彼女はそのサッカーの試合をみる。

このタイプに含まれる重要な動詞には更に次のものがあります。

empfehlen 「薦める」、stehlen 「盗む」

- e (長母音) → i (長母音) になるもの (例外的なつづり方なので気を付けてください)

geben 「与える」

ich gebe wir geben
du gibst ihr gebt
er gibt sie geben

Die Lehrerin gibt jetzt Unterricht.

その先生は今授業をしている。

- e (長音) → i (短母音) になるもの (短母音であるため、次の子音を重ねます)

nehmen 「取る」

ich nehme wir nehmen
du nimmst ihr nehmt
er nimmt sie nehmen

treten 「歩く」

ich trete wir treten
du trittst ihr tretet
er tritt sie treten

Sie nimmt den Rock.

彼女はそのスカートを買う。

Der Mann tritt langsam.

その男はゆっくりと歩く。

【口調上の e がないもの】

2人称・3人称で幹母音が変わるとき、口調上の e は挿入されません。

halten 「保つ」

ich halte wir halten
du hältst ihr haltet
er hält sie halten

raten 「助言する」

ich rate wir raten
du rätst ihr ratet
er rät sie raten

Der Bus nach Berlin hält nicht hier.

ベルリン行きのバスはここには停まりません。

Der Mann rät immer richtig.

その男の人はいつも正しく助言をする。

gelten 「該当する、有効である」

ich gelte wir gelten
du giltst ihr geltet
er gilt sie gelten

Der Fahrschein gilt nicht mehr.

その乗車券はもう有効ではない。

このタイプに含まれる重要な動詞には更に次のものがあります。

braten 「焼く」、laden 「積む」、schelten 「叱る」、treten 「歩く、踏む」

【補足】 ここまでに挙げたタイプの他に次のものがあります。

【au → äu】

	laufen 「走る」		
ich	laufe	wir laufen	Das Mädchen läuft sehr schnell.
du	läufst	ihr lauft	その少女はとても速く走る。
er	läuft	sie laufen	

【o → ö】

	stoßen 「ぶつかる」		
ich	stoße	wir stoßen	Das Kind stößt oft gegen die Wand.
du	stößt	ihr stoßt	その子どもはよく壁にぶつかる。
er	stößt	sie stoßen	

5 現在形の用法

ドイツ語には英語の現在進行形に相当するものはなく、現在形が「～している」と動作の進行を表します。

Ich lese gerade die Zeitung.	私は今新聞を読んでいるところです。
Ich lese immer abends die Zeitung.	私はいつも晩に新聞を読みます。

また、現在形は未来のことからも表します。

Ich fahre morgen nach Berlin.	私は明日ベルリンに行きます。
-------------------------------	----------------

過去から現在まで継続していることからも現在形で表されます。

Wir lernen seit April Deutsch.	私たちは4月からドイツ語を勉強しています。
--------------------------------	-----------------------

Lektion 2

[名詞の性, 名詞の格変化 (1格と4格)]

1 名詞の性

ドイツ語の名詞は文法上かならず「男性」、「中性」、「女性」のいずれかのグループに属します。名詞の性の違いは主にその名詞に付く冠詞の違いによってあらわされます。ドイツ語では、英語の *the* に相当する定冠詞には3つあり、男性名詞には **der** が、中性名詞には **das** が、女性名詞には **die** が付きます。

男性名詞	中性名詞	女性名詞
der Vater 「お父さん」	das Kind 「子ども」	die Mutter 「お母さん」
der Staat 「国家」	das Dorf 「村」	die Stadt 「町, 市」
der Bleistift 「鉛筆」	das Buch 「本」	die Tasche 「カバン」

これらの例のうち、**Vater**「お父さん」が男性名詞、**Mutter**「お母さん」が女性名詞であるように、人間や動物など「自然の性」を持つものを表す名詞ではほぼ「自然の性」と「文法上」の性は一致しますが、**Mädchen**「少女」が中性名詞であるように一致しない例もあります。(これは後で述べるように、**-chen**の語尾を持つ名詞はすべて「中性」であると決まっているからです。)

また、上の例で明らかのように、物や事柄を表す名詞の性は、ほとんど恣意的に決まっていると言ってよく、基本的には覚えるしかありません。ドイツ語の名詞は、必ず定冠詞を付けて覚えるようにしてください。

辞書には、男性名詞は**男**や **m** (**Maskulinum** [マスキリーヌム] の略)、中性名詞は**中**や **n** (**Neutrum** [ノイトルム] の略)、女性名詞は**女**や **f** (**Femininum** [フェミニヌム] の略) のように記されています。この教科書では **der**, **das**, **die** の最後の1文字をとって **r Vater**, **s Kind**, **e Mutter** のように名詞の性を示しています。

なお、ドイツ語では、固有名詞に限らずすべての名詞を必ず大文字で書き始めることになっています。

【補足】 形から性がわかる名詞

ごく少数ですが、形から性が決まっている名詞があります。以下の接尾辞が付くとその名詞の意味に関係なく性が決まります。

【男性名詞にする接尾辞】

-er: (動詞の語幹について、その行為を(職業として)する人を表します)

r Lehrer 「(男性の) 教師」、**r Arbeiter** 「労働者」

-ling: (主に動詞や形容詞に付き、その性質を持つ人間を表す男性名詞を作ります)

r Lehrling 「徒弟」、**r Liebling** 「お気に入り、人気者」、**r Säugling** 「乳児」

-ismus : (主義・傾向・制度を表す男性名詞を作ります)
r Kapitalismus 「資本主義」, r Buddhismus 「仏教」

【中性名詞にする接尾辞】

-chen : (小さなものを表す中性名詞を作ります)
s Mädchen 「少女」, s Brötchen 「小さなパン」, s Päckchen 「小包」
-lein : (小さなものを表す中性名詞を作ります)
s Fräulein 「お嬢さん」, s Vöglein 「小鳥」

【女性名詞にする接尾辞】

-in : (人間の職業や国籍などの属性を表す男性名詞を対応する女性名詞にします)
e Lehrerin 「(女性の) 教師」, e Japanerin 「(女性の) 日本人」
-ung : (動詞の語幹に付いて、行為や行為の結果を表す名詞を作ります)
e Bildung 「教養」, e Forschung 「研究」, e Achtung 「尊敬」
-heit : (形容詞に付いて性質や集合体を表す女性名詞を作ります)
e Freiheit 「自由」, e Menschheit 「人類」, e Schönheit 「美」
-keit : (-bar, -ig, -lich, -sam で終わる形容詞に付いて性質や状態を表す女性名詞を作ります)
e Einsamkeit 「孤独」, e Möglichkeit 「可能性」, e Flüssigkeit 「液体」
-schaft : (名詞に付いて、集合体や抽象物を表す名詞を作ります)
e Lehrerschaft 「全教員」, e Freundschaft 「友情」

【意味から性が決まっているもの】

以下の名詞はすべて男性名詞です。まとめて覚えておくと便利です。

季節の名前

r Frühling 「春」 r Sommer 「夏」 r Herbst 「秋」 r Winter 「冬」

月の名前

r Januar 「1月」 r Februar 「2月」 r März 「3月」 r April 「4月」 r Mai 「5月」
r Juni 「6月」 r Juli 「7月」 r August 「8月」 r September 「9月」
r Oktober 「10月」 r November 「11月」 r Dezember 「12月」

曜日の名前

r Montag 「月曜日」 r Dienstag 「火曜日」 r Mittwoch 「水曜日」
r Donnerstag 「木曜日」 r Freitag 「金曜日」
r Samstag 「土曜日」(北ドイツでは r Sonnabend) r Sonntag 「日曜日」

・合成語の性

2つ以上の名詞が組み合わさってできている合成語（複合名詞）の場合、基礎となる最後の名詞の性が合成語全体の性になります。

s Gemüse 「野菜」 + r Laden 「店」 → r Gemüseladen 「八百屋」

r Tee 「お茶」 + e Tasse 「カップ」 → e Teetasse 「ティーカップ」

2 名詞の格変化（1格と4格）

【1格の用法】

・文の主語（誰が・何が）を表します。

Der Mann kommt aus Berlin. その男の人はベルリン出身です。

・sein「～である」などを使った「AはBである」という関係を表す文の主語（A）はもちろんのこと、述語（B）としても使われます。

Der Täter ist der Mann dort. 犯人はあそこにいる男だ。

・呼びかけの語句も1格です。

Was machst du hier, junger Mann? ここで何をしているのだ、若者よ？

【4格の用法】

・直接目的語（動詞の表す行為の向く直接的な対象）を表します。

Ich kaufe einen Apfel. 私は1個のリンゴを買います。

・nennen「AをBと呼ぶ」を使った文のBの部分（4格述語）も4格です。

Alle nennen den Mann einen Lügner. すべての人がその男を嘘つきだと言う。

・副詞的4格

時間・日・月・年などを表す名詞を副詞として用いる時は4格にします。

Diesen Sommer fahre ich nach Deutschland. この夏、私はドイツに行きます。

Ich bin nur einen Tag in München. 私は1日しかミュンヘンにいません。

Lektion 3 [名詞の複数形, 名詞の2格と3格, 人称代名詞の3格と4格, 男性弱変化名詞]

1 名詞の複数形

1. 無語尾式 der Lehrer 「(男の) 先生」 → die Lehrer
 (ウムラウト) der Vogel 「鳥」 → die Vögel
 - ・ -chen, -lein で終わる名詞は必ず無語尾式で単複同形になります。
 - ・ -er で終わる職業・国籍を表す名詞 (r Japaner など) は必ず無語尾式で単複同形になります。
 - ・ 女性名詞で無語尾式になるのは, e Mutter 「母」 → Mütter, e Tochter 「娘」 → Töchter の2語だけです。
2. -e 式 das Heft 「ノート」 → die Hefte
 (ウムラウト) die Nacht 「夜」 → die Nächte
 - ・ 女性名詞で -e 式ならば, 必ず幹母音がウムラウトします。(e Hand 「手」 → Hände, e Stadt 「町」 → Städte など)
 - ・ 動詞の語幹から作られた名詞 (語幹名詞, たとえば, wünschen 「望む」 → r Wunsch 「望み」 → Wünsche) は, たいてい男性名詞で -e 式です。
 - ・ -nis で終わる名詞の複数語尾は, 子音を重ねて, -nisse となります。(s Geheimnis 「秘密」 → Geheimnisse, e Kenntnis 「知識」 → Kenntnisse など)
3. -er 式 das Kind 「子ども」 → die Kinder
 (ウムラウト) das Haus 「家」 → die Häuser
 - ・ -er 式では幹母音がウムラウト可能なら (つまり, a, o, u, au なら) 必ずウムラウトします。(r Mann 「男」 → Männer, s Wort 「単語」 → Wörter, s Buch 「本」 → Bücher など)
 - ・ このタイプに女性名詞はありません。
 - ・ 1音節の中性名詞はほとんどこのタイプです。
4. -(e)n 式 die Blume 「花」 → die Blumen
 die Frau 「女性」 → die Frauen
 - ・ 単数形がもともと -e で終わっている場合, および, -el, -er で終わっている場合は -n だけを付け (e Gabel 「フォーク」 → Gabeln, e Schwester 「姉・妹」 → Schwestern など), その他の場合は -en を付けます。
 - ・ このタイプでは幹母音は決してウムラウトしません。
 - ・ 男性弱変化名詞 (後述) はすべてこのタイプです。
 - ・ 女性名詞は大部分このタイプに属します。
 - ・ -in で終わる女性名詞の複数語尾は, n を重ねて -innen になります。(e Leherin 「(女性の) 教師」 → Lehrerinnen)
 - ・ 接尾辞 -keit/-heit/-schaft/-ung を持つ女性名詞 (← Lektion 2 参照) の複数形は必ずこのタイプで -en が付きます。(e Schönheit 「美, 美人」 → Schönheiten, e Kleinigkeit

「些細なこと」→ Kleinigkeiten, e Mannschaft 「チーム」→ Mannschaften,
e Erfindung 「発明」→ Erfindungen)

5. -s 式 das Auto 「車」→ die Autos

- このタイプは英語やフランス語からの外来語がほとんどです。
(s Hobby 「趣味」→ Hobbys, s Hotel 「ホテル」→ Hotels)
- 略語も -s を付けて複数形にします。(r LKW 「トラック」→ LKWs)

【補足】特殊な形の複数形

ギリシャ語やラテン語起源の単語のなかには、複数形が特殊な形になるものがあります。

s Museum 「博物館」→ Museen

s Studium 「勉学」→ Studien

r Organismus 「有機体」→ Organismen

(-ismus は複数形で必ず -ismen になります)

2 名詞の 2 格

男性・中性名詞 2 格の語尾 -s/-es

男性・中性名詞の 2 格の語尾に -s と -es のどちらを付けるかは、発音しやすい方でいいことが多いのですが、大まかに言って、1 音節の名詞（母音が 1 つしかない名詞）には、-es、2 音節以上の名詞には -s を付けます。しかし、次の場合は規則があります。

(1) -s, -ß, -tz, -x などの語末が歯音（「ス」「ツ」など息が前歯に当たって出る音）のときは、-es を付けます。

das Haus 「家」→ des Hauses

der Fuß 「足」→ des Fußes

der Satz 「文」→ des Satzes

(2) アクセントのない -er, -el, -en, -em で終わる語は必ず -s を付けます。

der Lehrer 「(男性の) 先生」→ des Lehrers der Onkel 「おじ」→ des Onkels

das Mädchen 「少女」→ des Mädchens

der Atem 「息」→ des Atems

【補足】辞書の表記と名詞の覚え方

名詞を正しく使うためには、1) 性、2) 単数 2 格の形、3) 複数形を知らなければなりません。そのため、辞書ではこの 3 つの情報が次のように記載されています。

Buch [bu:x ブーフ] 田 -[e]s / Bücher

性 単数 2 格の形 / 複数 1 格の形

1) 性:

男 または m (= Maskulinum の略) → 男性名詞を表します

中 または n (= Neutrum の略) → 中性名詞を表します

女 または f (= Femininum の略) → 女性名詞を表します

2) 単数 2 格の形：

- s → 1 格の形に -s を付けることを表します。
- es → 1 格の形に -es を付けることを表します。
- [e]s → 1 格の形に -s を付けるか、-es を付けることを表します。
- → 1 格の形と 2 格の形が同じであることを表します。(女性名詞は、必ず 1 格と 2 格が同じ形なので、この記号の代わりに空欄になっていることもあります。)

3) 複数 1 格の形：上記の例のように最近の辞書ではそのまま載せてあることが多いですが、以下の記号も使われます。

- → 単数形と複数形が同形であることを示します。例：Fenster → Fenster
- e/-en/-n/-er/-s → 単数形にそれぞれの語尾を付けることを表します。
例：Fisch → Fische / Frau → Frauen / Blume → Blumen / Kind → Kinder
Auto → Autos
→ 単数形の幹母音をウムラウトさせることを示します。Vater → Väter
- ≡er → 単数形の幹母音をウムラウトさせ、かつ、-er の語尾を付けることをしめします。
≡例：Wald → Wälder

名詞を覚えるときは、その性と複数形を合わせて覚えましょう。例えば、Buch「本」という名詞を覚えるときは、das Buch, die Bücher のように、定冠詞を付けて単数形と複数形を何度も口にするのが効果的です。

2 格の用法：2 格には以下の用法もあります。

- ・ 名詞の付加語として、行為の主体を表します (主語的 2 格)。
Die Herrschaft des Diktators dauerte zehn Jahre.
その独裁者の支配は 10 年間続いた。
- ・ 名詞の付加語として、行為の客体を表します (目的語的 2 格)。
Die Zerstörung der Umwelt ist bereits weit fortgeschritten.
環境の破壊はすでにかなり進んでいる。
- ・ 述語として使われ、主語の状態を表します (述語的 2 格)。
Ich bin der Meinung, dass die Atomkraftwerke abgeschafft werden sollen.
私は原子力発電所は廃止されるべきだという意見です。
- ・ ごく少数の動詞や形容詞の目的語を表します (2 格目的語)。
Wir gedenken der Opfer der Naturkatastrophe.
私たちは自然災害の犠牲者を悼みます。
Ich bin mir meiner Verantwortung bewusst.
私は自分の責任を認識しています。
- ・ 副詞として使われ、特にある一時点を表します (副詞的 2 格)。
Eines Tages ging das Mädchen in den Wald.
ある日その少女は森に行きました。

3 名詞の3格

【3格の用法】3格には以下の用法もあります。

- ある行為によって利益を受ける人を表します（利益の3格）。
Sie strickt dem Mann einen Pullover. 彼女はその男の人にセーターを編んであげる。
- ある行為によって被害を受ける人を表します（被害の3格）。
Der Regen verdirbt uns den Ausflug. 雨で遠足が台無しだ。
(↑雨が私たちに遠足を台無しにする。)
- 身体部位の所有者を表します（所有の3格）。
Der Vater putzt dem Sohn die Zähne. 父親は息子の歯を磨いてやる。
- 動詞によっては3格の目的語だけを取るものもあります。
Er hilft dem Freund. 彼は友人を助ける。
Das Buch gehört dem Schüler. その本はその生徒のもです。

4 人称代名詞の3格と4格

Lektion 2でもふれましたが、3人称の代名詞は、それが指す名詞の性によって使い分けられます。r Film「映画」は男性名詞なので、その4格の代名詞はihnになります。

Siehst du den Film? — Ja, ich sehe ihn.

君はその映画を見るのかい? うん、それを見るよ。

人称代名詞は名詞よりも前に置かれます。代名詞は、誰・何を指しているかが明らかなので（だからこそ代名詞になれるわけです）、そのような要素はなるべく先に言う方がスムーズな伝達が行われるからです。

人称代名詞が二つあるときは4格—3格の順番で言います。人称代名詞の優先順位は1格>4格>3格で、文の中域（第2位の定形動詞の後から、梓構造の最後まで）では、この順番で並べられると覚えてください。

Ich schenke ihr den Ring. Ich schenke ihn ihr.

私は彼女にその指輪を贈る。 私はそれを彼女に贈る。

• 人称代名詞の2格

人称代名詞の2格は次の形になります。

単数					複数			単・複
1人称	2人称	3人称 ^男	3人称 ^中	3人称 ^女	1人称	2人称	3人称	敬称2人称
meiner	deiner	seiner	seiner	ihrer	unser	euer	ihrer	Ihrer

人称代名詞の2格は、所有の概念を表すわけではなく（所有は不定冠詞類によって表されます）、2格支配の前置詞の後、もしくは、目的語に2格を持つごく一部の動詞、形容詞の後で用いられます。

Er kommt statt ihrer.	彼は彼女（彼女）の代わりに来る。
Wir gedenken seiner.	我々は彼のことを偲ぶ。
Er ist seiner mächtig.	彼はそれを自分のものになっている。

なお、人称代名詞の2格は現代語ではほとんど用いられません。上の例では、stattは（文法的にはたとえ間違いでも）statt ihmのように3格と用いられます。また、gedenkenもmächtig seinも格調高い書き言葉でしか用いられません。

5 男性弱変化名詞

男性名詞の中には、単数1格以外のすべての格において、-[e]nが付く特殊な変化をするものがあります。これを男性弱変化名詞と呼びます。r Student「学生」、r Junge「男の子、若者」を例に変化表を挙げます。

	単数	複数	単数	複数
1格	der Student	die Studenten	der Junge	die Jungen
2格	des Studenten	der Studenten	des Jungen	der Jungen
3格	dem Studenten	den Studenten	dem Jungen	den Jungen
4格	den Studenten	die Studenten	den Jungen	die Jungen

辞書には例えば、Student ㊦ -en/-enのように記載されています。単数2格と複数1格の両方に-enの語尾が付くことから、これが男性弱変化名詞であることがわかります。

男性弱変化名詞には次のようなものがあります。

1) -eで終わる男性名詞：

Junge「少年」、Kunde「客」、Affe「サル」、Löwe「ライオン」など。

【注】男性名詞で-eで終われば必ず弱変化です。例外は、Name「名前」、Käse「チーズ」などで少数です。

2) -ent, -ist, -atなどアクセントを持つ音節で終わる外来語：

Student「学生」、Pianist「ピアニスト」、Präsident「大統領」、Soldat「兵士」など

3) その他：

Mensch「人間」、Herr「主人、～（さん：英語のMr.にあたる）」（Herrは、単数でder Herr, des Herrn, dem Herrn, den Herrn、複数でdie Herren, der Herren, den Herren, die Herrenと変化します。）

【補足】r Name「名前」、s Herz「心臓・心」は不規則に変化します。

der Name, des Namens, dem Namen, den Namen
das Herz, des Herzens, dem Herzen, das Herz

Lektion 4

[分離動詞, 非分離動詞, 話法の助動詞]

1 分離動詞

前つづりの「意味」と分離動詞

前つづりは意味を持っているので, 具体的, 中心的な意味がわかれば抽象的な用法もわかってきます.

ab- 「離脱」

abfahren 「出発する」 Der Zug fährt um 10 Uhr ab. その電車は10時に出発します.

abreisen 「旅立つ」 Ich reise morgen ab. 私は明日旅立ちます.

an- 「接触」

ankommen 「到着する」 Der Zug kommt um 12 Uhr in München an.

その電車は12時にミュンヘンに到着する.

anrufen 「人々に電話する」 Wenn ich zu Hause ankomme, rufe ich dich an.

家に着いたら, 私はあなたに電話します.

ein- 「中に」 ⇔ aus- 「外に」

einpacken 「(トランクなどを) 詰める」 ⇔ auspacken 「(トランクなどの中身を) 出す」

Sie packt den Koffer ein. 彼女はトランクを詰める.

Sie packt den Koffer aus. 彼女はトランクを空けて中身を出す.

einsteigen 「乗り込む」 ⇔ aussteigen 「降りる」

Er steigt in den Zug ein. 彼はその電車に乗り込む.

Er steigt aus dem Zug aus. 彼はその電車から降りる.

auf- 「開いた状態」 ⇔ zu- 「閉まった状態」

aufmachen 「開ける」 ⇔ zumachen 「閉める」

Mach bitte das Fenster auf! 窓を開けて!

Mach bitte das Fenster zu! 窓を閉めて!

mit- 「一緒に」

mitkommen 「一緒に来る」 Wir gehen essen. Kommst du mit?

私たちは食事に行きます. 一緒に来る?

zurück- 「戻って」

zurückkommen 「戻ってくる」 Wann kommst du zurück?

いつ, 君は戻ってくるの?

【補足】 分離動詞から派生した名詞も前つづりにアクセントが置かれます:

e **Á**bfahrt 「発車」 (< **á**bfahren), e **Á**nkunft 「到着」 (< **á**nkommen), r in-/**Á**usgang 「入口」 / 「出口」 (< **é**in-/ **á**usgehen), e **Vó**rlesung 「講義」 (< **vó**rlesen).

2 非分離動詞

前つづりの中には分離しないものがあり、これらを非分離前つづりといいます。非分離前つづりを持つ動詞を非分離動詞といいます。

代表的な非分離前つづり

be-, emp-, ent-, er-, ge-, ver-, zer-

Er besucht heute seine Tante.

彼は今日おばさんを訪ねる。

Besucht er heute seine Tante?

彼は今日おばさんを訪ねますか？

Ich weiß, dass er heute seine Tante besucht.

私は、彼が今日おばさんを訪ねるを知っている。

非分離動詞では、アクセントは必ず基礎動詞部分にあります。

empfehlen 「勧める」 entdecken 「発見する」 verkaufen 「売る」

不規則変化をする基礎動詞部分を持つ非分離動詞はやはり不規則に人称変化します。

zerbrechen 「粉々に壊す」

ich zerbreche

du zerbrichst

er zerbricht

Er zerbricht die Tasse.

彼はカップを壊す。

【補足】分離・非分離動詞

・前つづりの中には分離になったり、非分離になったりするものがあります。

durch-, hinter-, über-, um-, unter- など

・分離で用いられるか非分離で用いられるかは辞書で確かめるしかありませんが、一般的な傾向として、具体的な意味のとき分離で、抽象的な意味のとき非分離になります。

über|setzen 「(向こう岸に) 渡す」(具体的な移動を表しているから分離)

Er setzt sie an das andere Ufer über.

彼は彼女を向こう岸まで(ボートなどで) 渡す。

übersetzen 「翻訳する」(ある言語からある言語に移し替えるという抽象的な「移動」を表しているので非分離)

Er übersetzt das Gedicht vom Deutschen ins Japanische.

彼はその詩をドイツ語から日本語に翻訳する。

3 話法の助動詞の用法

【dürfen】

〔許可〕～してもよい；(否定で)～してはいけない。

Darf ich hier rauchen?

ここでたばこを吸ってもいいですか？

Sie dürfen hier nicht rauchen.

あなたはここでたばこを吸ってはいけません。

【können】

イ)〔能力, 可能性〕～できる；(否定で)～できない。

Peter kann gut Schach spielen.

ペーターはとてもうまくチェスをすることができる。

Ich kann nicht schwimmen. 私は泳げません。

ロ)〔推量〕～かもしれない；(否定で)～あり得ない。

Das kann noch lange dauern.

それはまだずっと続くかもしれない。

Das kann nicht wahr sein.

それが真実であるはずはない。

【mögen】

イ)〔認容〕～(したければ)すればよい。

Er mag es ruhig tun.

彼はそれをしたければすればいいんだ。

ロ)〔推量〕～かもしれない。

Das mag falsch sein.

それは間違っているのかもしれない。

【müssen】

イ)〔義務, 必然性〕～しなければならない；(否定で)～する必要はない。

Du musst Hausaufgaben machen.

おまえは宿題をしなくてはならない。

Morgen muss ich nicht arbeiten.

明日は私は働かなくてもいい。

[注] 英語の **must not** は「してはいけない」ですが、ドイツ語の **nicht müssen** は「しなくてもよい」なので注意しましょう。

ロ)〔強い推量〕～に違いない

Er muss krank sein.

彼は病気に違いない。

【sollen】

イ)〔主語以外の人の, 主語に対する要求〕～すべきだ, ～するように言われている。

Ich soll ihn um zehn Uhr vom Bahnhof abholen.

私は彼を10時に駅に迎えに行くように言われている。

Soll ich Ihr Gepäck tragen?

あなたの荷物を持ちましょうか？

ロ)〔伝聞による推定〕～と言われている／らしい。

Der Film soll sehr interessant sein.

その映画はとてもおもしろいらしい。

【wollen】

イ)〔主語の意志〕～したい, ～するつもりだ.

Er will im Ausland studieren. 彼は留学をするつもりだ.

ロ)〔主語の主張〕自分のことを～と言っている.

Er will nicht der Täter sein. 彼は自分は犯人ではないと言っている.

【möchte】(mögen の接続法 2 式の形)

〔控えめな願望, wollen を丁寧に表示する〕～したい (のですが).

Ich möchte Kaffee trinken. コーヒーが飲みたいのですが.

Was möchten Sie trinken? 何をお飲みになりたいですか?

【補足】話法の助動詞の本動詞用法

話法の助動詞には不定形の動詞は伴わない本動詞としての用法もあります.

können 「できる」, mögen 「好きだ」, wollen 「ほしい」

Kannst du Schach? チェスできる?

Ich mag keinen Fisch. 私は魚は嫌いだ.

Jetzt willst du sicher etwas zu essen. 今, きっと何か食べるものがほしいでしょう.

【補足】移動の際の本動詞の省略

話法の助動詞を使った文において, 方向を表す語句がある時は, gehen, fahren 等の移動を表す本動詞は省略できます.

Jetzt muss ich nach Hause. 今, 家に帰らなくてはいけない.
(最後に gehen を付けることももちろん可能)

【補足】使役の助動詞 lassen

使役の助動詞 lassen は, 話法の助動詞と同様の使われ方をし, 「ある人にあることをさせる」という意味を表します. 「ある人」の部分は 4 格目的語になります.

Ich lasse ihn zum Bahnhof gehen. 私は彼を駅に行かせる.

Ich lasse ihn den Wagen waschen. 私は彼に車を洗わせる.

Lektion 5

[前置詞]

1 前置詞

1. 3・4格支配の前置詞

3・4格支配の前置詞は、基本的に空間の位置関係を表すほか、さまざまな用法を持ちます。ここでは空間の用法のみ挙げます。

an:「～に、～のところに」(ある場所・物に接触していることを表します。ただし、物の上面に接触している場合(たとえば、「机の上に」本がある場合など)は、次の auf で表します。)

Das Bild hängt an der Wand. その絵は壁に掛かっている。

Sie hängt das Bild an die Wand. 彼女はその絵を壁に掛ける。

auf:「上に」(ある物の上面に接触していることを表します。)

Das Buch liegt auf dem Tisch. その本は机の上にある。

Er legt das Buch auf den Tisch. 彼はその本を机の上に置く。

hinter:「後ろに」

Hinter dem Haus steht ein Baum. 家の後ろに木が立っている。

Die Kinder laufen hinter das Haus. 子ども達は家の裏に走っていく。

in:「中に」

Sie wohnt in Berlin. 彼女はベルリンに住んでいる。

Ich gehe jetzt in die Stadt. 私はいまから街に行く。

neben:「横に」

Neben dem Krankenhaus liegt die Apotheke. 病院のとなりに薬局がある。

Der Bräutigam stellt sich neben die Braut. 新郎は新婦の横に立つ。

über:「上方に」(接触しない「上に」あることを表します)

Das Bild hängt über dem Schreibtisch. その絵は机の上に掛かっている。

Das Flugzeug fliegt von Narita über Sibirien nach Frankfurt.

その飛行機は成田からシベリア上空を通過してフランクフルトに飛ぶ。

vor:「前に」

Vor dem Haus steht ein großer Baum. その家の前に大きな木が立っている。

Sie stellt sich vor den Spiegel. 彼女は鏡の前に立つ。

zwischen:「(～と)～の間に」

Sie sitzt zwischen ihrem Mann und ihrem Sohn. 彼女は夫と息子の間に座っている。

2. 2格支配, 3格支配, 4格支配の前置詞の用法

2格支配の前置詞の用法

anstatt, statt:「～の代わりに」という代理や代替を表します。anstatt と statt は同じ意味で使われます。なお、口語では3格支配でも使われます。

Sie übernimmt die Arbeit [an]statt ihres Mannes. 彼女が夫の代わりにその仕事を引き受ける。

außerhalb: 時間・空間・抽象的な領域について、「～の外」を意味します。

Der Arzt ist auch außerhalb der Sprechzeiten telefonisch erreichbar.

その医者は、診療時間外でも電話で連絡が取れます。

Sie wohnt außerhalb der Stadt.

彼女は町の外に住んでいます。

[注] 空間的に外部を表すときは、前置詞 von と組合わさって副詞的にも使われます。

Sie wohnt außerhalb von Köln.

彼女はケルン郊外に住んでいます。

innerhalb: 時間や空間について、「～の中で」を意味します。

Innerhalb eines Jahres müssen wir das fertig machen.

一年以内に私たちはそれを仕上げなければならない。

Innerhalb der Stadt gibt es keinen Park.

町の中には公園がない。

[注] 時間と空間のどちらの意味でも、前置詞 von と組合わさって副詞的にも使われます。

Innerhalb von zwei Monaten kommt sie zurück.

2ヶ月以内に彼女は戻ってきます。

Er wohnt innerhalb von Berlin.

彼はベルリン市内に住んでいます。

trotz: ある事柄や状況に対して、「～にかかわらず」と、それからふつう想定されることに反することを述べるときに使われます。

Trotz des Regens machen sie einen Ausflug.

雨にもかかわらず彼らは遠足に行く。

[注] 口語では3格支配でも使われます。Trotz dem Regen

während: 特定の期間や行為の行われている時間について、「～の間に」という意味を表します。

Während des Kriegs lebten sie im Ausland.

戦争の間、彼らは外国で暮らしていた。

wegen: 原因や理由を挙げ、「～のために」という意味を表します。

Wegen seiner Krankheit kommt er nicht.

病気のため、彼は来ません。

[注] 口語では3格支配としてもよく使われます。

Wegen dem Hund fahren sie nicht in Urlaub.

犬のために、彼らは休暇に行かない。

特に、人称代名詞とともに用いられるときは、人称代名詞の2格自体が現在ではほとんど使われないこともあり、3格支配になるか (wegen mir 「私のため」、wegen dir 「君のため」)、別の形 (meinetwegen, deinetwegen) になります。

4 格支配の前置詞の用法

durch: 空間的に通過点「～を通過して」を表します。また、手段を表すこともあります。

Rotkäppchen geht durch den Wald zur Oma.

赤ずきんは森をとおばあさんのところへ行く。

Durch Drücken dieses Knopfes schaltet man die Anlage ein.

このボタンを押すことによって、この機械を作動させます。

für: 「～のために」と、利益を受け対象を表します。また、基準や、期間も表します。

Er arbeitet für die Familie.

彼は家族のために働く。

Deutsch ist für mich schwer.

ドイツ語は私には難しい。

Ich miete die Wohnung für zwei Jahre.

私はその住居を2年間借りる。

gegen: 「～に逆らって」と、対立する対象を表します。

Ich brauche ein Medikament gegen Husten. 私は咳止めの薬がいる。

ohne: 「～なしで」と欠如を表します。

Die Miete beträgt ohne Strom und Heizung 900 Euro.

家賃は光熱費を含まずに900ユーロだ。

um: 空間的に「～回りに」を表すほか、時間的に「～(時)に」を表します。

Sie bindet sich einen Schal um den Hals.

彼女は首の回りにスカーフを巻く。

Der Unterricht beginnt um 10 Uhr.

授業は10時に始まります。

3. 前置詞と定冠詞の融合形

定冠詞の指示力が弱い場合とは、主に次の2つがあります。

- 1) 想起されるものが通常一つしかない場合: 例えば、ある人が「今からオフィスに行く」と行った場合のオフィスは当然彼のいるべきオフィスなので、„Ich gehe jetzt ins Büro.“ となります。これを in das Büro と言うと、「何か特別な、今話題に上っている、そのオフィス」ということになってしまいます。
- 2) その名詞が特定のものを指すというより、動詞と結びついて行為を表す場合: たとえば、「喫茶店に行く」と言う場合、ins Café gehen と言いますが、これは特定の店を指すわけではなく、〈喫茶店に行ってお茶を飲む〉という行為を表しています。

2 da(r)- + 前置詞

事物を表す人称代名詞が前置詞と用いられる場合、da- + 前置詞（母音で始まる前置詞の場合は、dar- + 前置詞）という形になります。次の例を参照してください。

Ich arbeite mit der Sekretärin. → Ich arbeite mit ihr.

私は秘書と仕事をする。

Ich arbeite mit dem Computer. → Ich arbeite damit.

私はコンピューターで仕事をする。

e Schreibmaschine は物ですから、mit ihr とならず、damit という形になります。また、疑問代名詞 was が前置詞と用いられる場合は wo- + 前置詞（母音で始まる前置詞の場合は、wor- + 前置詞）という形になります。

Womit arbeiten Sie?

あなたは何を使って働きますか？

Woran arbeiten Sie?

あなたは何の仕事をしているのですか？

Lektion 6 [再帰代名詞, 再帰動詞, 命令形]

1 再帰代名詞

相互代名詞

主語が複数で、「お互いに」という意味を表すときにも **sich** は用いられます。このような用法を相互代名詞と呼びます。

Sie lieben sich. 彼らは愛し合っている。

【注】この場合、もし、**sich** が再帰代名詞だとすると、たとえば、**Er liebt sich.** 「彼は自分自身を愛している」+ **Sie liebt sich.** 「彼女は自分自身を愛している」= **Sie lieben sich.** 「彼らはそれぞれ自分自身を愛している」ということになり、文法的にはこの可能性もあります。再帰代名詞か相互代名詞かは文脈からふつつわかります。

2 再帰動詞

再帰表現には、次のようなものもあります。

物が主語になる属性表現

Das Buch verkauft sich gut. その本はよく売れる。

【注】直訳すれば「その本は自分自身をよく売る」となりますが、これでその本の属性（性質）を表す表現になります。なお、英語ではこの場合、**The book sells well.** と、他動詞をそのまま自動詞として用いますが、ドイツ語では目的語になる再帰代名詞が必要です。

非人称の **es** を用いた属性表現

Hier wohnt es sich gut. ここは住み心地がよい。

【注】上の「物が主語になる属性表現」の場合と違い、**hier** 「ここ」などの副詞（句）の属性を表現したいときは、非人称の **es** を文法上の主語にします。

sich + 動詞 + **lassen** による「受動的可能表現」

Das Fenster lässt sich schwer öffnen. その窓はなかなか開かない。

【注】**lassen** 「させる」と **sich** を組み合わせると、「～されうる」と受動+可能の意味になります。

3 命令形

【補足】提案の表現

「～しよう」とあることを提案するときは、**wir** の疑問文と同じ形を用いて、イントネーションを変えることによって表します。ふつう、感嘆符を文末に付けますが、最近では付けなくても多くなってきています。また、**sein** は、**Sie** に対する命令形と同様、**seien** という形になります。

Gehen wir jetzt spazieren! 今、散歩に行きましょう！

Seien wir realistisch! 現実的になりましょう！

Lektion 7 [形容詞の変化, 比較級と最上級]

1 形容詞の格変化

ケース1 定冠詞類がある場合の形容詞の変化

	男性	中性	女性	複数
	「その大きな机」	「その新しい車」	「その古いランプ」	「それらの厚い本」
1格	der große Tisch	das neue Auto	die alte Lampe	die dicken Bücher
2格	des großen Tisches	des neuen Autos	der alten Lampe	der dicken Bücher
3格	dem großen Tisch	dem neuen Auto	der alten Lampe	dendicken Büchern
4格	den großen Tisch	das neue Auto	die alte Lampe	die dicken Bücher

ケース2 不定冠詞類がある場合の形容詞の変化

	男性	中性	女性
	「私の大きな机」	「私の新しい車」	「私の古いランプ」
1格	mein großer Tisch	mein neues Auto	meine alte Lampe
2格	meines großen Tisches	meines neuen Autos	meiner alten Lampe
3格	meinem großen Tisch	meinem neuen Auto	meiner alten Lampe
4格	meinen großen Tisch	mein neues Auto	meine alte Lampe
	複数		
	「私の厚い本」		
1格	meine dicken Bücher		
2格	meiner dicken Bücher		
3格	meinen dicken Büchern		
4格	meine dicken Bücher		

ケース3 冠詞類がない場合の形容詞の変化

	男性	中性	女性	複数
	「ドイツのワイン」	「良い天気」	「新鮮な空気」	「長い髪の毛」
1格	deutscher Wein	schönes Wetter	frische Luft	lange Haare
2格	deutschen Weins	schönen Wetters	frischer Luft	langer Haare
3格	deutschem Wein	schönem Wetter	frischer Luft	langen Haaren
4格	deutschen Wein	schönes Wetter	frische Luft	lange Haare

【補足】 etwas 「何か」、 nichts 「何も～ない」 の後の形容詞の変化

etwas や nichts と形容詞が結びつくときは、形容詞は後置され、中性単数の変化をします。

なお、形容詞は大文字で書き始めます。

Gibt es etwas Neues?

何か新しいことがありますか？

In der Zeitung steht nichts Interessantes.

新聞には何もおもしろいことは載っていない。

2 比較級と最上級

【補足】絶対比較級・絶対最上級

特定のものと比較するのではなく、比較級を「比較的～だ」、最上級を「非常に～だ」という意味で使うことがあります。

Er ist ein älterer Mann.

彼は年輩の男性です。

【注】 ein alter Mann よりは若いことに注意。年の若い順番に並べると、 ein junger Mann < ein jüngerer Mann < ein älterer Mann < ein alter Mann になります。

Gestern war das herrlichste Wetter.

昨日は最高の天気だった。

3 同等比較

「～と同じくらい ... だ」という同等比較を表すには、so + 原級 + wie という形を用います。また、この表現に nicht を付けて否定すると、「～ほど ... ではない」という意味になります。

Hans ist so alt wie Peter.

ハンスとペーターは同じ年です。

Ich bin nicht so reich wie Sie.

私はあなたほど金持ちではありません。

【補足】倍数など

zweimal (または doppelt) 「2倍」、dreimal 「3倍」など、倍数(基数 + -mal) を付けると、「～の○○倍 ... だ」という意味になります。また、halb を使うと「～の半分だ」を表します。

Alte Klimaanlage verbrauchen zweimal so viel Strom wie neue.

= Neue Klimaanlage verbrauchen halb so viel Strom wie alte.

古いエアコンは新しいエアコンの2倍の電気を消費する。

= 新しいエアコンは古いエアコンの半分の電気を消費する。

4 序数

1 (eins), 2 (zwei), 3 (drei)... など数量を表す語を基数というのに対し、「1番目の」「2番目の」「3番目の」など順序を表す語を序数と言います。基数は変化しませんが(ただし、「1つの」という場合は不定冠詞になり変化する)、序数は1種の形容詞なので、形容詞と同じ変化語尾が付きます。

序数の作り方 1-9までの序数は基数 + t- でつくり、20以上は基数 + st- でつくります。ただし、1, 3, 7, 8は例外です。次の表で確認してください。なお、序数をアラビア数字で表すときは、数字の後に必ずピリオドを打ちます。

	基数	序数		基数	序数
1	eins	erst-	20	zwanzig	zwanzigst-
2	zwei	zweit-	21	einundzwanzig	einundzwanzigst-
3	drei	dritt-	22	zweiundzwanzig	zweiundzwanzigst-
4	vier	viert-
5	fünf	fünft-	30	dreißig	dreißigst-
6	sechs	sechst-	40	vierzig	vierzigst-
7	sieben	siebt- (siebent-)	50	fünfzig	fünfzigst-
8	acht	acht-	60	sechzig	sechzigst-
9	neun	neunt-	70	siebzig	siebzigst-
10	zehn	zehnt-	80	achzig	achzigst-
11	elf	elft-	90	neunzig	neunzigst-
12	zwölf	zwölft-	100	[ein] hundert	hundertst-
13	dreizehn	dreizehnt-	101	einhunderteins	einhunderterst-
14	vierzehn	vierzehnt-
15	fünfzehn	fünfzehnt-	326	dreihundert- sechszwanzig	dreihundert- sechszwanzigst-
16	sechzehn	sechzehnt-
17	siebzehn	siebzehnt-	1000	[ein] tausend	tausendst-
18	achtzehn	achtzehnt-	10000	zehntausend	zehntausendst-
19	neunzehn	neunzehnt-	1000000	eine Million	millionst-

Biegen Sie bitte an der dritten Kreuzung nach rechts ab!

3番目の交差点で右に曲がってください。

Sie wohnt im zweiten Stock eines Studentenwohnheims.

彼女は学生寮の2階（3階）に住んでいます。

【注】ドイツでは、日本で言う1階のことを *s Erdgeschoß* といい、2階を *der erste Stock*, 3階を *der zweite Stock* と言います。したがって、上の例文の訳は、日本流の数え方なら「彼女は学生寮の3階に住んでいる」とするのが正しいことになります。

序数の用法

序数を使った表現のうち特に注意を要するものを挙げます。

1) 日付

日付は *der + 序数 + 月の名*（または序数）で表します。

「2月4日」 = *der vierte Februar* = *der 4. Februar*
= *der vierte zweite* = *der 4. 2.*

なぜ、男性の定冠詞 *der* が付くかと言えば、その後に Tag 「日」が省略されているからです。

「今日は ... 月 ... 日だ」というには、*sein* 動詞を使う表し方と *wir* を主語にして *haben* を使う表し方があります。どちらを使っても同じです。

Heute ist der zwanzigste April. 今日(けふ)は4月20日だ。
Heute haben wir den zwanzigsten April. 今日(けふ)は4月20日だ。

「今日は何日ですか」と尋ねるには, wie viel の序数 wievielt- を使って表します。

Der Wievielte ist heute?

Den Wievielten haben wir heute?

【注】Welcher Tag ist heute? または, Welchen Tag haben wir heute? という質問は「今日は何曜日ですか?」という意味です。

「...月...日に」というには, am + 序数(-en) を使います。

Ich bin am 25. (=fünfundzwanzigsten) August geboren.

私は8月25日生まれです。

Am Wievielten kommt er nach Japan? 彼は何日に日本に来るのかい?

2) 分数

分詞は基数で, 分母は序数に -el を付けて表します。分母は大文字で書き始めます。

ein Drittel 「3分の1」, drei Viertel 「4分の3」

【注】「2分の1」は halb 「半分」を使います。なお, 「1と2分の1 (=1.5)」は anderthalb または eineinhalb, 「2と2分の1」は zweieinhalb といいます。

3) 「...毎(ごと)に」

「3日毎に」などを表すには, jeder の後に序数をおきます。

Sie arbeitet jeden dritten Tag. 彼女は3日毎に働く。

Jede zweite Frau ist berufstätig. 女性の二人に一人は職業を持っている。

4) 「...人で」

zu + 序数で「...人で」を表します。

Wir gehen zu dritt ins Kino. 私たちは3人で映画館に行きます。

5) 「...番目に高い」

「2番目に高い」など等級を表すには, 序数 + 形容詞の最高級を使います。なお, 一語でつづります。

K2 ist der zweithöchste Berg der Erde. K2は地球上で2番目に高い山です。

Die Universität Leipzig ist die zweitälteste Universität in Deutschland.

ライプツィヒ大学はドイツで2番目に古い大学です。

5) 形容詞の名詞化

形容詞の後に続く名詞を省略して, 形容詞を一種の名詞に使うことができます。男性・女性・複数の名詞が省略されているときはすべて「人」を指しています。

der alte Mann 「その年取った男」	→	der Alte 「その（男の）老人」
ein alter Mann 「一人の年取った男」	→	ein Alter 「ある（男の）老人」
die alte Frau 「その年取った女」	→	die Alte 「その（女の）老人」
eine alte Frau 「一人の年取った女」	→	eine Alte 「一人の（女の）老人」
die alten Leute 「その年取った人々」	→	die Alten 「その老人達」
alte Leute 「年取った人々」	→	Alte 「老人達」

形容詞が名詞化されたといっても、変化は後ろに名詞を伴うときと同じです。

Ich unterhalte mich gern mit der Alten. 私はその老婦人と話すのが好きです。

よく名詞化されて用いられる形容詞に次のようなものがあります。不定冠詞のついた男性 1 格・女性 1 格、無冠詞の複数 1 格の形で載せます。

deutsch 「ドイツの」	→	ein Deutscher / eine Deutsche / Deutsche 「ドイツ人」
intellektuell 「知的な」	→	ein Intellektueller / eine Intellektuelle / Intellektuelle 「知識人」
krank 「病気の」	→	ein Kranker / eine Kranke / Kranke 「病人」
behindert 「阻害された」	→	ein Behinderter / eine Behinderte / Behinderte 「障害者」
angestellt 「雇われている」	→	ein Angestellter / eine Angestellte / Angestellte 「サラリーマン」

なお、辞書では名詞として、独立した見出し語で記載されていることが多く、その際は、**男**・**女** Angestellte[r] となっています。

「公務員」という単語も形容詞の名詞化の一種なのですが、男性形が der Beamte, ein Beamter なのに対し、例外的に、女性形は die / eine Beamtin と -in で終わるので注意しましょう。

形容詞の名詞化が中性で行われると「物・事」を表します。これは定冠詞の付いた形しかありません。

Das ist das Schöne an der Sache.	それが、その事柄のもつ良いことだ。
Das ist das Beste, was ich kann.	それが私のできる最良のことです。

Lektion 8

[冠詞類, 指示代名詞, 副文, 並列接続詞]

1 定冠詞類

- jeder は単数形でしか用いないので注意してください。

Jedes Kind bekommt ein Geschenk.

どの子もプレゼントをもらう。

- mancher は、「かなり多くの」から「いくつかの」までかなり幅のある不特定な数を表します。

Die Straße ist an manchen Stellen beschädigt.

この道路は何カ所か傷んでいる。

- solcher は複数形の名詞と使われるのがふつうです。

Solche Gewohnheiten findet man heutzutage sehr selten.

このような習慣は今日ではほとんど見られない。

冠詞類の独立用法 (名詞の省略用法)

冠詞類には、名詞の前に付ける付加語用法の他に、独立して使う独立用法があります。独立用法のときは、mein 型冠詞類 (所有冠詞← Lektion 2) にも、dieser 型冠詞類と同じ強変化語尾が付きます。つまり、男性 1 格に -er, 中性 1 格・4 格に -es の語尾を付けることによって、省略されている名詞の性・数を明示するのです。なお、独立用法は 2 格では使われません。

	男性	中性	女性	複数
1 格	meiner	meines	meine	meine
2 格	-----	-----	-----	-----
3 格	meinem	meinem	meiner	meinen
4 格	meinen	meines	meine	meine

Ist das dein Bleistift oder meiner? — Das ist deiner.

それは君の鉛筆かい、それとも僕の？

君のだよ。

Sein Auto ist alt, aber ihres ist neu.

彼の車は古いが、彼女のは新しい。

2 指示代名詞 (=定冠詞の独立用法)

特定の人や物事を特に強く指し示す時に用いられる代名詞を指示代名詞と呼びます。形は 1 1 課ででてくる定関係代名詞と同じです。

	男性	中性	女性	複数
1 格	der	das	die	die
2 格	dessen	dessen	deren	deren
3 格	dem	dem	der	denen
4 格	den	das	die	die

男性・中性 2 格が dessen (定冠詞は des), 女性・複数 2 格が deren (定冠詞は der), それから、複数の 3 格が denen (定冠詞は den) となっているところが定冠詞と違うところです。また、定冠詞と同じ形をしているものでも、定冠詞より長く強く発音されます。

指示代名詞は、指示対象の名詞の性・数・格に一致します。

Mir gefällt der Rock hier. Den nehme ich.

私はこのスカートが気に入った。これを私は買います。

Mir gefällt das Kleid hier. Das nehme ich.

私はこのドレスが気に入った。これを私は買います。

Mir gefällt die Bluse hier. Die nehme ich.

私はこのブラウスが気に入った。これを私は買います。

Mir gefallen die Schuhe hier. Die nehme ich.

私はこの靴が気に入った。これを私は買います。

指示代名詞を使うと人称代名詞よりも「近接指示性」(＝直前のものを指し示す性質)が強くなります。また、指示代名詞は、指示対象の名詞を直接言わずに使うこともあります。

(スカートを指しながら) Wie findest du den hier?

ここのこれ(＝スカート)をどう思う?

(スカートは der Rock なので、男性の4格の den が使われる)

(ブラウスを指しながら) Wie findest du die hier?

ここのこれ(＝ブラウス)をどう思う?

(ブラウスは die Bluse なので、女性の4格の die が使われる)

また、人や事物を紹介するときは、中性の das を用います。

Was ist das? — Das ist ein Computer. これは何ですか?—これはコンピューターです。

Das ist Herr Schmidt. こちらはシュミットさんです。

3 否定冠詞の用法

【補足】 nicht の位置

nicht は、否定される語句の直前に置かれます。

a. Er kommt nicht heute. 彼は今日は来ない。(部分否定)

b. Er kommt heute nicht. 彼は今日来ない。(全文否定)

a. の文では、nicht は heute の直前に置かれ、heute が否定しています。意味は「彼は来ることは来る、でもそれは今日ではない」となります。このように文の一部のみが否定されるのを「部分否定」と呼びます。

それに対して、b. の文では、nicht が文末にあります。副文の語順で考えると((dass) er heute nicht kommt), 動詞の直前に置かれていることとなります。このように動詞が否定されると文全体が否定されること(全文否定)になります。

ただし、以下のケースのように動詞と他の語句が密接に結びついている場合、nicht はその前に置かれ、全体を否定することになります。

【熟語的なかたまり】

Ich spiele nicht Klavier. ← (ich) nicht Klavier spielen

私はピアノを弾きません。

【方向を表す句と動詞】

Ich gehe nicht in die Stadt. ← (ich) nicht in die Stadt gehen
私は町には行きません。

【存在や状態を表す場合】

Ich wohne nicht in Tokyo. ← (ich) nicht in Tokyo wohnen
私は東京には住んでいません。

【本動詞＋助動詞】

Ich muss heute nicht kochen. ← (ich) heute nicht kochen müssen
私は今日料理をする必要がない。

4 副文

Wir machen einen Ausflug, wenn das Wetter schön ist.

もし天気良ければ、私たちは遠足をする。

上の例文の前半部分は主文で、定形である *machen* は第2位に来ています。それに対して、後半では定形である *ist* が文の最後に来ています。これは、この後半部分の文が、*wenn* 「もし」という従属接続詞で始まっているからです。そして、「もし天気良ければ」というこの文は、それだけでは独立しておらず、前にある文 (=主文) に依存しています。このように、従属接続詞で始まり主文に依存する文を副文といい、副文では定形は最後に来ます。

Er kommt heute nicht, weil er erkältet ist.

┌──────────┐ ┌──────────┐
主文 副文

副文を主文より前にもってくることもできます。その時は、副文全体が一つの文肢として主文の第1位を占めるので、主文の定形はその副文のすぐ後にきます。あくまでも主文では定形は第2位に来るのです。

Wenn das Wetter schön ist, machen wir einen Ausflug.

┌──────────┐ ┌──┐
第1位 (副文全体) 第2位

従属接続詞

副文を導く従属接続詞には次のようなものがあります。

dass: ～ということ

Ich weiß, dass sie krank ist. 私は彼女が病気であることを知っている。

weil: ～なので、～だから

Ich gehe nicht zur Schule, weil ich Fieber habe. 熱があるので、私は学校へ行かない。

da: ～なので

Da es gestern so viel schneite, blieb ich den ganzen Tag zu Hause.

昨日はあんなに雪が降ったでしょう。だから私は一日中家にいました。

[注] *weil* と *da* は、両方ともほとんど同じ意味です。ただ、*weil* は聞き手が知らない理由を、

da は聞き手も知っている理由を挙げるときに使われる傾向があります。従って、weil 文は主文の後に、da 文は主文の前に述べられることが多いのです。

wenn: ～ならば；～するとき

Wenn du nicht kommst, gehe ich auch nicht zur Party.

君が来ないのなら、私もパーティには行かない。

damit: ～するために

Wir gehen jetzt schon, damit wir den Zug nicht verpassen.

電車に乗り遅れないように、私たちは今もう行きます。

obwohl: ～にもかかわらず

Obwohl er müde ist, arbeitet er den ganzen Tag im Büro.

彼は疲れているにもかかわらず、一日中オフィスで働いている。

bevor: ～する前に

Bevor ich ins Bett gehe, mache ich Hausaufgaben. 寝る前に、私は宿題をする。

nachdem: ～した後で

Nachdem er gegessen hatte, sah er noch ein bisschen fern.

食事をした後で、彼は少しテレビを見た。

[注] nachdem の文はふつう主文より時制が前になります。したがって主文が過去形（または現在完了形）の場合、このように過去完了形になります。

während: ～している間に

Während sie arbeitet, macht er nichts. 彼女が働いている間、彼は何もしない。

5 並列接続詞

文と文を繋ぐ接続詞には、上記の従属の接続詞の他に、主文同士を結ぶ「並列の接続詞」があります。これらは、文と文の間に置かれるものですから、後続の文の語順に影響を与えることはありません。また、並列接続詞は、文だけでなく句や語も結ぶことができます。

並列の接続詞には、次のようなものがあります。

und: ～そして

Thomas liest ein Buch und Sabine hört Radio.

トーマスは本を読んでおり、ザビーネはラジオを聴いている。

aber: ～しかし

Sie isst immer sehr viel, aber sie wird nicht dick.

彼女はいつもとてもたくさん食べますが、彼女は太りません。

denn: ～というのは

Mein Bruder kommt heute nicht, denn er ist krank.

私の兄は今日は来ません。というのも彼は病気だからです。

oder: ～あるいは

Wir spielen jetzt, oder ich gehe nach Hause.

今私達は遊ぶか、そうでなければ私は家に帰る。

Lektion 9

[動詞の三基本形, 現在完了形, 分詞]

1 動詞の三基本形

不定詞, 過去基本形, 過去分詞を動詞の三基本形といいます。

口調上の e の挿入

規則動詞の中で現在人称変化で口調上の e を挿入する動詞 (語幹が -d, -t などで終わるもの) では, 過去基本形・過去分詞形の語尾が -ete, -et になります。

arbeiten	「働く」	arbeitete	gearbeitet
reden	「語る」	redete	geredet

不規則動詞

不規則動詞には, 変化の仕方により, 強変化動詞と混合変化動詞の2つに分けられます。

強変化動詞

過去基本形 → 語幹 (幹母音変化 + 一部子音変化)

過去分詞 → ge + 語幹 (一部幹母音・子音変化) + en

fahren	「(乗り物で) 行く」	fuhr	gefahren
finden	「見つける」	fand	gefunden
gehen	「行く」	ging	gegangen
schlafen	「眠る」	schief	geschlafen

混合変化動詞

過去基本形 → 語幹 (幹母音変化 + 一部子音変化) + te

過去分詞 → ge + 語幹 (幹母音変化: 過去基本形と同一) + t

denken	「考える」	dachte	gedacht
kennen	「知っている」	kannte	gekant
nennen	「名付ける」	nannte	genannt

前つづりを持つ動詞の場合, 分離・非分離を問わず, 基礎動詞部分のみ変化します。ただし, 非分離動詞では過去分詞に ge- が付きません。

分離	aufmachen	machte...auf	aufgemacht
	auffliegen	flog...auf	aufgeflogen
非分離	bezahlen	bezahlte	bezahlt
	bekommen	bekam	bekommen

語尾が -ieren など終わるアクセントが第1音節にない動詞は, 過去分詞に ge- が付きません。

studieren	studierte	studiert
-----------	-----------	----------

【注】これは, もし過去分詞が ge- から始まると, 弱音節が2つ連続してしまうことになるからです。× ge-be-zahlt × ge-stu-diert

過去形 2 人称語尾における e の挿入

【注】 不規則動詞で過去基本形が -d, -t で終わる時は, du 及び ihr の人称語尾に e が挿入され, -est 及び -et になります。

fand (< finden 見つける): du fandest ihr fandet
bat (< bitten 頼む): du batest ihr batet

2 現在完了形

【補足】 ドイツ語の現在完了形は, 英語の完了形のように「完了・経験」を表すだけでなく, 現在の時点からみた過去の事柄一般を表します (従って, gestern 「昨日」などの過去の一時点を明示する副詞ともに使われます)。これに対し, 過去形は過去の事柄を回想的に現在から切り放して表す時に用いられます。この結果, 日常会話では現在完了形が, 物語では過去形が好んで用いられことになります。ただし, sein, haben および, 語法の助動詞は, 話し言葉でも過去形がよく使われます。

【補足】 過去完了形

過去のある時点よりも, 前に起こったできごとを表すには, 過去完了形を用います。過去完了形は, 完了不定詞の助動詞部分 (haben / sein) を過去人称変化させて作ります。

Als ich zu ihm ging, hatte er schon das Haus verlassen.

私が彼のところに行ったとき, 彼はすでに家を出ていた。

Sie hat bereit, dass sie nicht mitgefahren war.

彼女は一緒に行かなかったことを後悔した。

いずれも, 基準になる過去の時点 (上の文では「私が彼の家に行った」時点, 下の文では, 「彼女が後悔した」時点よりも, 時間的に前に起こった出来事が過去完了形によって表されています。

【補足】 未来完了形

完了不定詞と未来の助動詞 werden の定形を組み合わせると, 「未来完了形」ができます。「未来形」のところで述べたように, 不定詞と werden の組み合わせは多くの場合「推量」を表します。未来完了形も同様に, 完了してしまった事柄に対する推量を表します。そのため, 未来のある時点での完了も表しますが, むしろ, 過去の出来事に対する推量を表すために用いられます。

Bis morgen werde ich den Aufsatz geschrieben haben.

明日までには, 私は論文を書いてしまっているでしょう。(未来のことに対する推量)

Sie wird es wohl vergessen haben.

彼女はそのことをもう忘れてしまっているのだろう。(過去のことに対する推量)

【補足】 話法の助動詞の完了形

話法の助動詞は、他の動詞の不定形と使われるとき、過去分詞は不定形と同形になります。

これに対し、本動詞として使われるときは ge- のついた本来の過去分詞形になります。

[助動詞用法の時] Er hat Deutsch sprechen können. 彼はドイツ語を話すことができた。

[本動詞用法の時] Er hat Deutsch gekonnt. 彼はドイツ語ができた。

3 分詞

動詞を派生させて、形容詞の機能を持たせたものを分詞と言います。分詞には、現在分詞、過去分詞、未来受動分詞の3つがあります。

1) 現在分詞

現在分詞は動詞の不定形に -d を付けてつくります。

不定形		現在分詞
singen 「歌う」	→	singend
angeln 「釣りをする」	→	angelnd

ただし、tun 「する」は tuend, sein 「～である」は seiend になります。

現在分詞は、名詞の前に置かれてそれを修飾する付加語用法と、動詞を修飾する副詞用法があります。どちらの場合も「～している」という動作の進行や状態の持続を表します。

付加語用法

付加語用法では、現在分詞は形容詞と同じ格変化をします。

Sie tröstete das weinende Kind. 彼女はその泣いている子供をなぐさめた。

Sie stehen mit der aufgehenden Sonne auf. 彼らは昇りゆく太陽とともに起床する。

また、形容詞と同様に、現在分詞も名詞化して用いられることもあります。

der Reisende / die Reisende 「その（男性の／女性の）旅行者」

ein Reisender / eine Reisende 「一人の（男性の／女性の）旅行者」

副詞的用法

副詞的用法では格変化はしません。

Alle saßen lange schweigend. 全員、長いこと黙って座っていた。

[注] ドイツ語の現在分詞は英語の現在分詞（～ing の形）と異なり、現在進行形は作りません。

The Baby is sleeping. に対応するのは、× Das Baby ist schlafend. ではなく、現在形の Das Baby schläft. です。

2) 過去分詞

過去分詞は、haben や sein とともに完了形を作る、werden とともに受動形を作る、という二つの用法の他に、現在分詞と同様に、付加語的用法と副詞的用法があります。

付加語的用法

付加語的用法の場合、もとなっている動詞が sein 支配の自動詞の場合、「～してしまっている」という完了の意味になり、他動詞の場合は「～された」という受動の意味になります。なお、格変化はどちらも形容詞と同じです。

sein 支配の自動詞： das untergegangene Schiff 沈没した船
das vergangene Jahr 去年

他動詞： ein gekochtes Ei ゆで卵
verbotene Früchte 禁じられた果実

副詞的用法

あまり数は多くありませんが、副詞的にも用いられます。

Sie ging erleichtert nach Hause. 彼女はほっとして家に帰った。

3) 未来受動分詞

現在分詞の前に zu を付けたものを未来受動分詞といい、「sein + zu 不定詞」に対応する分詞になります。つまり、受動の可能「～されうる」と受動の義務・必然「～されなければならない」の意味になります。なお、未来受動分詞は付加語的にのみ用いられます。

ein leicht zu lösendes Problem 簡単に解くことのできる問題（受動の可能）
die schnell zu erledigende Arbeit すぐに片づけなければならない仕事（受動の義務・必然）

4) 冠飾句

名詞を修飾する形容詞が長い句になりうるように、分詞が付加語として用いられる場合も他の語句を伴い長い修飾句になることができます。このようなものを特に冠飾句（「名詞を飾る冠」という意味）と呼びます。

ein hart gekochtes Ei 硬くゆでた卵
ein tief gefrorenes Fertiggericht 冷凍されたインスタント食品

上の例では、分詞の前に副詞が一つ付いただけですが、理論的にはどんなに長くても可能です。

die von den Brüdern Grimm gesammelten Märchen

グリム兄弟によって収集されたメルヘン

ein überall in Japan zu sehende Brauch 日本各地に見られる習慣

しかし、冠飾句があまりながくなると、非常にわかりにくくなるので、おのずと限度があります。

Lektion 10

[受動態, 関係代名詞]

1 受動態

受動態の各時制は, werden を時制変化させて作ります. 完了形を作る際の過去分詞は, geworden ではなく, ge- のない worden という形になります.

現在 : Er wird ... gelobt. 現在完了 : Er ist ... gelobt worden.

過去 : Er wurde ... gelobt. 過去完了 : Er war ... gelobt worden.

【注】未来形は Er wird gelobt werden. 未来完了形は Er wird gelobt worden sein. となりますが, どちらもめったに使われません.

自動詞の受動文

ドイツ語では, 自動詞からも受動文を作ることができます. ただし, 受動文の主語になれるのは能動文の4格目的語だけで, 自動詞の受動文は主語(1格)のない文になります. 3格目的語や前置詞格目的語などはそのままの形にしておき, 定動詞は常に3人称単数形になります(これを非人称と言います). 文頭には es を穴埋めとして置くこともできます.

[3格目的語]

Er hilft ihr. 彼は彼女を手助けする.

→ Ihr wird (von ihm) geholfen.

→ Es wird ihr (von ihm) geholfen.

[前置詞格目的語]

Er verzichtete auf den Plan. 彼はその計画を断念した.

→ Auf den Plan wurde (von ihm) verzichtet.

→ Es wurde (von ihm) auf den Plan verzichtet.

[目的語無し]

Am Sonntag arbeitet man nicht. 日曜日は働かない.

→ Am Sonntag wird nicht gearbeitet.

→ Es wird am Sonntag nicht gearbeitet.

【補足】状態受動

過去分詞 + sein を組み合わせると, 状態受動と呼ばれる形になり, 「~された状態である」という結果的状态を表します.

Die Tür ist geöffnet. ドアは開けられている.

【補足】原因・手段を表す durch

能動文の主語が行為を行う人というよりは原因や手段である場合, 受動文では durch を用います.

Die Stadt wurde durch das Erdbeben zerstört. その町は地震によって破壊された.

2 関係代名詞

【補足】定関係代名詞 welcher

古いドイツ語や現在でも文語では定関係代名詞として welcher が用いられることがあります。変化は定冠詞類と同じです。ただし、2格はほとんど使われず、dessen/deren が代わりに用いられます。

	男性	中性	女性	複数
1格	welcher	welches	welche	welche
2格	(welches) dessen	(welches) dessen	(welche) deren	(welcher) deren
3格	welchem	welchem	welcher	welchen
4格	welchen	welches	welche	welche

Ich danke allen Menschen, welche mir geholfen haben.

私は私を助けてくれたすべての人に感謝します。

【補足】不定関係代名詞

先行詞を含む関係代名詞のことを不定関係代名詞といい、wer「(およそ)～する人」と was「(およそ)～するもの」の2つがあります。(特定のものを指しているわけではないので「不定」関係代名詞といいます。)

不定関係代名詞 wer

不定関係代名詞 wer は一般的な「人」(およそ～する人)を表し、次のように格変化します。

1格 wer 2格 wessen 3格 wem 4格 wen

これらの格形は、関係文中の役割によって決まります。

1格：Wer zuletzt lacht, lacht am besten. 最後 laughingものが一番よく笑う。

3格：Wem es nicht gefällt, der soll es bleiben lassen.

それが気に入らないものは、しなければいい。

4格：Wen die Götter lieben, der stirbt jung. 佳人薄命。才人多病。

[逐語訳] die Götter「神々が」、lieben「愛する」、wen「人」、der「その人は」、jung「若くして」
stirbt < sterben「死ぬ」

不定関係代名詞の格形は、関係文中の役割を示しているだけなので、その関係文が、主文の中でのどのような役割を示してはいません。それを示すのが、指示代名詞で、男性形を用います。der (1格)「が」、dessen (2格)「の」、dem (3格)「に」、den (4格)「を」、と変化します。

Wer nicht arbeiten will, der soll auch nicht essen.

働く気の無い者 (その人は) 食うべからず.

den verachten wir.

その人を私たちは軽蔑する.

この例で見ると、wer nicht arbeiten will の部分は、主文では主語にも目的語にもなるのです。

なお、関係文で1格の wer が使われていて、かつ、その関係文が主文の主語（1格）になっているときは、指示代名詞 der は省略されるのが多いです。「働かざる者食うべからず」という上のことわざも、der を省略して言うのがふつうです。

Wer nicht arbeitet, soll auch nicht essen.

不定関係代名詞 was

不定関係代名詞 wer が一般的な「人」を表すのに対して不定関係代名詞 was は、一般的に不特定の「(およそ～である) もの」「(およそ～ある) こと」を表します。なお、1格と4格しかなく、どちらも was という形です。

Was wahr ist, bleibt wahr.

真実であるものはどこまでも真実である。

was に導かれる関係文ももちろん副文なので、定形は最後に来ます。上の例文では was wahr ist 「真実であるもの」という関係文全体が主文の bleibt wahr 「真実であり続ける」の主語になっています。wer が使われる文と同様です。指示代名詞を使うとすれば、das を用いて、関係文と主文の関係を明示することができますが、was は1格と4格しかなく、それほど文の文法関係が複雑ではないので、ほとんど用いられることはありません。

次の文は、was で始まる文が主文の目的語になっています。

Ich verstehe nicht, was du sagst.

僕には君の言っていることが理解できない。

(= Was du sagst, verstehe ich nicht.)

was の先行詞

不定関係代名詞 was はふつう先行詞をとりません。しかし、具体性のない語を先行詞に取ることもあります。それは、alles 「すべて」、das 「そのこと」、etwas 「何か」、nichts 「何も...ない」のような不定代名詞と、das Beste などの形容詞の中性名詞形（特に最上級）です。

Ich gebe dir alles, was ich habe.

僕が持っているものをすべて君にあげよう。

Momentan gibt es nichts, was wir besprechen müssen.

今現在は、私たちが話し合わなければならないことは何もない。

Mach das Beste, was du jetzt machen kannst!

君が今できる最善のことをしなさい。

前文を受ける was

Ich habe die Prüfung bestanden, was meine Eltern sehr gefreut hat.

私はその試験に合格した。それが両親を大変喜ばせた。

不定関係代名詞 was は、前の文で述べた文全体の意味を受けることもあります。上の例文の was は「私が試験に合格したこと」こと全部を指しています。そのことが「両親を大変喜ばせた」わけです。

この was が、前置詞を結びつくと、wo[r]- という形になります。上の例文の後半の was 以下を „Meine Eltern haben sich über ... gefreut.“ を使って言い換えると次のようになります。

Ich habe die Prüfung bestanden, worüber meine Eltern sich sehr gefreut haben.

この worüber はいわば über + was ということで、やはり前の文全体の受けています。

【補足】 関係副詞の wo

先行詞が地名（固有名詞）の場合、関係副詞 wo を用います。

Morgen fahre ich nach Bonn, wo ich vier Jahre studiert habe.

私は4年間勉強したボンに明日行きます。

Lektion 11

[zu 不定詞, 未来形]

1 zu 不定詞

副詞的な意味を表す zu 不定詞には um + zu の他に, ohne + zu 「～せずに」と, statt + zu 「～する代わりに」があります。statt の代わりに anstatt が用いられることもあります。

Er benutzt das Auto seines Vaters, ohne ihn zu fragen.

彼は父親の車を尋ねもせずに使う。

Statt zu arbeiten, liest er immer nur Comics.

働きもしないで、彼はいつもマンガばかり読んでいる。

さらに, zu 不定句の用法として, haben + zu と sein + zu があります。

haben + zu 不定形: 「～しなければならない」

Ich habe heute viel zu tun.

私は今日たくさんすることがある。

sein + zu 不定句: 「～されうる」(受動の可能), 「～されなければならない」(受動の義務)

Das Problem ist leicht zu lösen.

その問題は簡単に解くことができる。

Was ist noch zu tun?

まだ何かすることがある?

(↑何がまだなされなければならないのか?)

2 未来形

定形の werden と不定詞を組み合わせると「未来形」ができます。しかし、ドイツ語では未来のことからでも現在形で言うのがふつうです。この「未来形」は時間的な未来というよりも、推量を表します。

語順は話法の助動詞の場合と同じです。

Er wird morgen um 10 Uhr zu uns kommen. 彼は明日 10 時に私達のところに来るでしょう。

【注】

・主語が 1 人称の場合は「強い意志」を, 2 人称の場合は「命令」を表すのがふつうです。

Ich werde das nie vergessen.

私はそれを決して忘れない。

Du wirst sofort ins Bett gehen.

(親が子どもに向かって:) すぐに寝なさい!

Lektion 12 [接続法]

1 接続法第1式の人称変化

第1式基本形：不定詞の語幹と同じ

spiel- (< spielen)

	1式 語尾	spiel-	fahr-	hab-	werd-	sei-
ich	-e	spiele	fahre	habe	werde	sei*
du	-est	spielest	fahrest	habest	werdest	seiest
er	-e	spiele	fahre	habe	werde	sei*
wir	-en	spielen	fahren	haben	werden	seien
ihr	-et	spielet	fahret	habet	werdet	seiet
sie	-en	spielen	fahren	haben	werden	seien

接続法第1式の人称変化は非常に単純で、人称語尾を付けるだけです。直説法現在形で幹母音が変化する動詞でも、接続法では変化しません。

* sein だけは、1人称単数と3人称単数で語尾が付かず、語幹だけになります。

2 間接話法

ある人の発言を引用符に入れてそのまま引用するのを直接話法というのに対して、話し手の立場から言い直すのを間接話法と言います。間接話法には基本的に接続法第1式が使われます。

直接話法：Er sagte: „Ich bin krank und kann die Arbeit nicht übernehmen.“

「僕は病気で、その仕事は引き受けられません」と彼は言った。

間接話法：Er sagte, er sei krank und könne die Arbeit nicht übernehmen.

彼は、自分は病気で、その仕事は引き受けられないと言った。

ただし、主語が ich, wir, sie (彼ら) の場合など、接続法第1式と現在形が同形になってしまう場合、接続法だと言うことを明示するために第2式を使います。

Sie sagten, sie hätten keine Zeit.

彼らは時間がないと言った。

3 要求話法

接続法第1式を用いて、主語に対する要求や要望を表すことができます。多くは、慣用的な表現です。

Man nehme zwei Esslöffel Zucker.

砂糖大さじ2杯使うこと。

Gott sei Dank.

やれやれ。(←神に感謝あれ。)

敬称2人称に対する命令形は、この接続法第1式による要求話法です。

Kommen Sie morgen bitte pünktlich!

明日はどうか時間に正確に来てください。

Seien Sie bitte nicht böse!

どうかお気を悪くなさらずに。

4 接続法の時制

接続法には、ある時点からみて、それと同じ (= 同時性) なのか、それより以前 (= 前時性) なのか、あるいはそれより以後 (= 後時性) なのかの、3つの時制しかありません。

・同時性を表す場合：単純な形式

主文（間接話法において）あるいは文脈（非現実話法において）と同時的な事柄を表す場合には、上で述べた形を使います。なお、ドイツ語には英語のような時制の一致はありません。

・前時性を表す場合：接続法の完了形

主文あるいは文脈より以前の事柄を表す場合は、「haben / sein の接続法第1式・2式＋本動詞の過去分詞」という完了形の形式を用います。

〈間接話法〉

Er sagte, er sei krank gewesen. < Er sagte: „Ich war krank.“

Er sagte, er habe kein Geld gehabt. < Er sagte: „Ich hatte kein Geld.“

〈非現実話法〉

Wenn ich Zeit gehabt hätte, wäre ich ins Konzert gegangen.

・後時性を表す場合：単純な形式もしくは werden の接続法

主文あるいは文脈により後に起こるであろう事柄を表す場合は、接続法の単純な形そのまま用いるか、「不定形＋werden の接続法1式・2式」という形を用います。

Er sagte, dass sie bald ankomme/ ankommen werde/ ankommen würde.

【補足】 非現実話法の接続法第2式はさまざまなタイプの文で用いられます。

1) 前提部の副文だけを用いた願望文：

Wenn ich doch Geld hätte! お金があればなあ！

2) 仮定的条件を副文ではなく、前置詞句で表した文：

Ohne seine Hilfe hätte ich das nicht geschafft.

彼の助けがなければそれを成し遂げられなかっただろう。

3) als ob 文 (= as if) :

Er sieht (so) aus, als ob er krank wäre. 彼はまるで病気のように見える。

4) 外交的（婉曲な）表現：

Ich hätte eine Frage. 質問があるのですが。

Das wäre besser. その方がいいでしょう。

接続法の主要な用法として、間接話法、非現実話法の他に、要求話法があります。これは3人称に対する要求を表すもので、文語的表現です。

Gott helfe uns! 神よ我々を助けたまえ。

Man nehme nach dem Essen drei Tabletten! 食後に3錠服用のこと。